

# いのち

「いのち」は、さまざまに形を変えながら受け継がれていきます。変わらないものもあれば、時代や環境に合わせて変わるものもあります。私たち人間も、その流れの中に生きています。

音楽も生き生きと「いのち」を輝かせていると感じます。

高校時代、私の作曲ノートには、

初代指揮者・松田匡史さんの「音楽にいのちを」という言葉があり、今もずっと心に残っています。

この第十一回演奏会では、メンバーそれぞれの「いのち」が音楽を通して響き合う時間になることを願っています。

玉置清明

## 秦野民謡

伝承歌はその土地の人々に（少しずつ形を変えながら）歌い継がれ、歌う人がいなくなるといつしか忘れられ復活しません。まさに、曲のいのちが絶えます。特に第二曲の麦打ち唄は、四十年以上昔の録音テープから起こしたもので、現在その地区では途絶えている可能性があります。合唱曲にすること自体オリジナルからは大きく隔たった姿になりますが、その旋律的造形性は保ち新たに生きなおします。

### 早春の会合唱団 プロフィール

団員の多くが都立目黒高校の旧音楽部に所属し、当時の顧問織田久男先生から、音楽と合唱を学んだ共通体験を持ちます。卒業後20余年後の1993年に、旧音楽部のOB会（早春の会）の有志で「早春の会合唱団」を立ち上げ、新しい仲間を迎えながら現在に至っています。

〈お問い合わせ先〉

早春の会合唱団 平部正和  
mhirabe1952@gmail.com  
080-5379-6925

早春の会合唱団  
ホームページ

